

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	天龍峡花の里事業	会計	一般会計	事業No.	469	施策順No.	11-042	
		事業種別	政策・重点	予算科目	7-1-4-14-3			
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	観光課			
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	17	終了	26

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	天龍峡						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		観光客数(人/天龍峡)	162400	174500	179600	178700	180000		
意図	対象をどう変えるか	天龍峡IC周辺用地の有効利活用						目標達成度 A	
		事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績		23年度目標
		そばの栽培面積(ha)	3	3	3	3	3		3
		観光客数(人/花の里)	5000	4200	5000	4000	5500		3500
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		これまでの継続的な取り組みから地元に着し、中京圏旅行情報誌等から情報発信したことで市内外(県外を含む)の方々に知られるようになり、目標を上回る多くの観光客が訪れた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	三遠南信自動車道天龍峡インター周辺用地を地域に根ざした継続的な利活用を図るため、地域住民を主体とした組織に管理を委託する。利活用の手段として、天龍峡への観光誘客を図るため「信州大そば」を中心に計画的な花による栽培を行い、花の魅力を活用した交流空間を創り出すとともに、市民の憩いの場としていく。さらに、収穫されたそばを活用したイベントの開催や「天龍峡そば」を普及するなど、食を通した観光誘客に取り組む。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 天龍峡花の里を活用した誘客 天龍峡花の里づくり業務委託料 A=3.0ha 信州大そばの栽培(夏・秋) 2 天龍峡そば祭りの開催支援と信州大そばの普及ブランド化の推進	1 開花期間中の観光客数 2 そば祭り実施日数	1 5,500人 2 5日
23年度実施計画	1 天龍峡花の里を活用した誘客 天龍峡花の里づくり業務委託料 A=3.0ha 信州大そばの栽培(秋) 2 天龍峡そば祭りの開催支援と信州大そば(天龍峡そば)のブランド化の普及推進	1 開花期間中の観光客数 2 そば祭り実施日数	1 3,500人 2 3日

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
		県支出金				
		起債				
		その他				
		一般財源	1,257	1,257	1,257	
		計(A)	1,257	1,257	1,257	
		正規職員所要時間		300		
		臨時職員等所要時間				
		人件費計(B)		1,073		
		トータルコスト A+B		2,330		

4 事業に対する市民や議会の意見

天龍峡インター周辺用地の有効利活用により地域の活性化と天龍峡の再生・活性化を図る。 天龍峡インター周辺用地の恒久的な利活用計画により地域の活性化を図る。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	事業等が観光消費額等を高める活動をする	施策の成果指標又はムトス指標	観光消費額(億円) 経済自立度(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	天龍峡観光の新たな魅力が生み出され、その継続的な取り組みにより天龍峡観光の一つに定着しつつある。		
	後期に向けた課題	天龍峡インター周辺用地の将来の利活用計画については、天龍峡の観光振興及び地域活性化を目指し、関係行政と連携し検討・立案していく必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	計画から今日までの取り組みにいたるまで、地域住民が深く関わった事で愛着や誇りが生まれている。都市住民との交流拠点に位置つきつつある。		
	後期に向けた課題	天龍峡インター周辺用地の将来の利活用計画の立案については、これまでの地域の係わりを考慮し、地域の意向を踏まえた計画を示していく必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	地域住民の主体的に係わり、行政が必要な支援していくことでコスト削減につながっている。		
	後期に向けた課題	今後も地域住民の主体的な係わりを求めていくために、天龍峡インター周辺用地の将来像を具体的に示し、地域住民の士気を高めしていく必要がある。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	国(国土交通省)との覚書により、市が用地の維持管理を行うこととなっている。また、天龍峡再生・活性化していくために、新たな玄関口に位置付く天龍峡インター周辺の活用に対し、市が関与する程度は適切である。		
	後期に向けた課題	天龍峡インター周辺用地の地権者である国(国土交通省)と利活用計画や役割分担について、十分に検討していく必要がある。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①主体は地域住民をはじめ花の里管理運営委員会であり、用地の管理、そばの花の栽培や収穫したそばを活用した観光誘客を図るまでに及ぶ。 ②継続した活動につながるよう計画段階から地域住民へ働きかけを行った。		
	後期に向けた課題	今後も地域住民の主体的な係わりを求めていくために、天龍峡インター周辺用地の将来像を具体的に示し、地域住民の士気を高めしていく必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	用地の維持管理、そばの花の栽培や収穫したそばを活用した観光誘客事業など一連の活動が地域住民に定着し、一定の成果がでている。		
	後期に向けた課題	今後も地域住民の主体的な係わりを求めていくために、天龍峡インター周辺用地の将来像を具体的に示し、地域住民の士気を高めしていく必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------